

学修状況アンケートの結果について（パイロット版）

1. 調査の目的

この調査は学生の学修状況や学習環境を把握することを通じて、大学の教育や環境、学習支援の充実と質的向上を図るための基礎的資料を作成することを目的としている。

2. 調査対象、実施期間、実施方法

タイトル：学修状況、学生生活に関する調査 ver.1

実施期間：2021年7月16日～8月14日

調査対象：本学に在籍する学部生（1年生～4年生）

在学生 2056人(2021/5/1 現在)

（1年生 481人, 2年生 500人, 3年生 511人, 4年生 564人）

周知方法：Campus Square を通じて周知

実施方法：Web 上でフォームを使用し実施

質問票：質問票は文部科学省の国立教育政策研究所が2014年、2016年に全国の大学生を対象に実施した「大学生の学習状況に関する調査」の質問を参考に、本学独自の質問を加えて作成した[1][2]。結果の項目や算出については[3]を参考に行った。

3. 有効回答数（有効回答率）と学年別内訳

- アンケート回答率 22%
- 結果の集計について：アンケートの回答者数や学年別回答率が、実際の在学生の構成比と異なるため、平均値の差の検定などは行わずに単純平均として算出している。

表1 アンケート学年別内訳

	在学生	回答者数	回答率
1年生	481	166	35%
2年生	500	84	17%
3年生	511	84	16%
4年生	564	116	21%
合計	2056	450	22%

<結果の概要>

1. 学習時間と生活時間について

1週間あたりの学習時間と生活時間については、大学の授業や予習時間、サークル、アルバイトなどを含む8つの活動（凡例項目参照）に使った時間を「0時間」「1-5時間」「6-10時間」「11-15時間」「16-20時間」「21-25時間」「26-30時間」「31時間以上」の8つのカテゴリーで尋ねている。集計結果を簡略化するために各カテゴリーに階層値（中間値）を割り当て、平均活動時間を学年別に算出している。

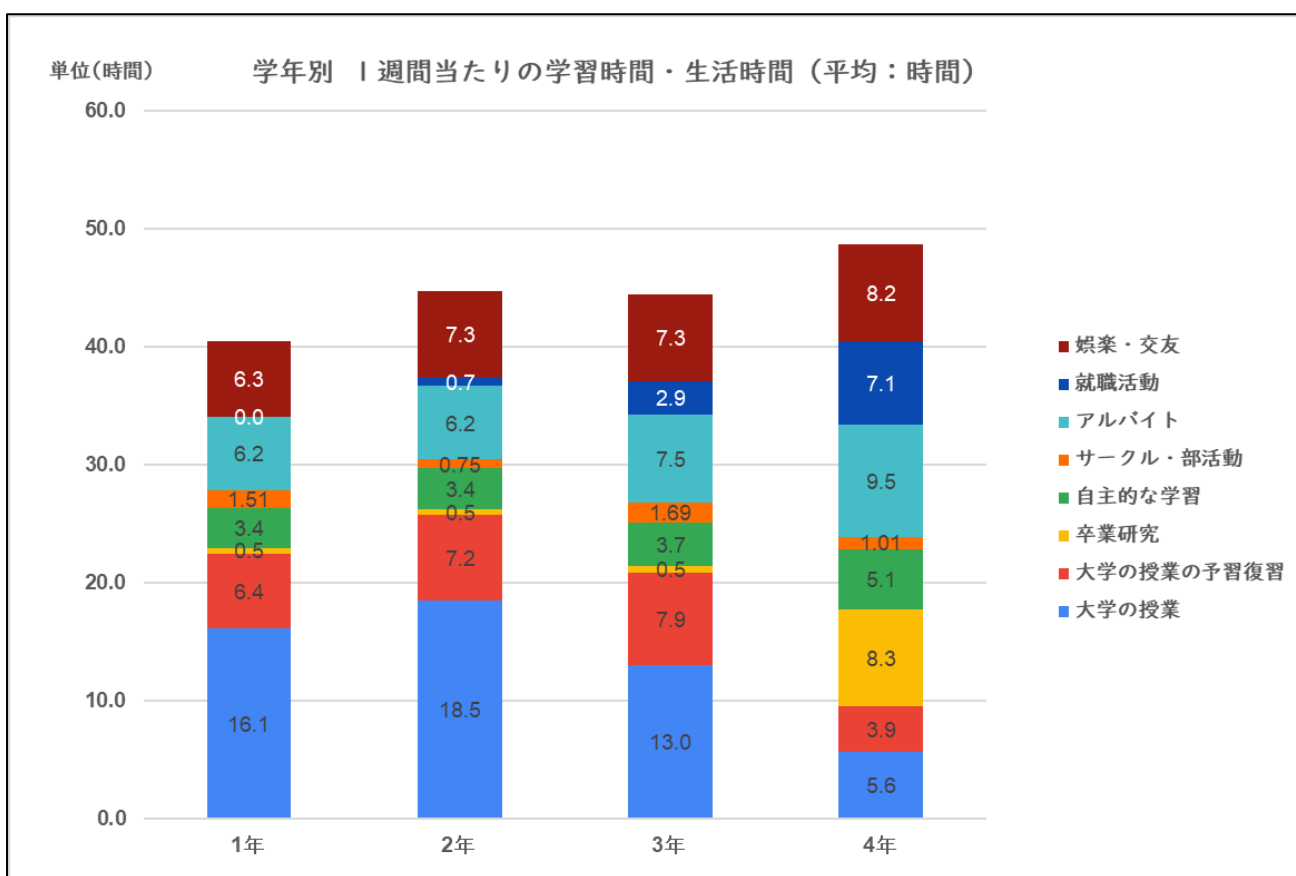


図1 学年別1週間当たりの学修時間・生活時間（平均：時間）

(1) 学年別1週間当たりの学修時間・生活時間について

図1は1週間当たりの学修時間・生活時間について学年別に示したものである。「大学の授業」への出席については、1年生の1週間あたりの授業出席平均は16.1時間、2年生は18.5時間であった。3年生になるとやや減少して13時間で、4年生は5.6時間と他学年に比べて3分の1の時間であった。これは4年生が履修科目数が少ないことが影響していると思われる。

「授業の予習復習時間」については、1～3年生の1週間あたりの平均予習時間は6～8時間となっている。4年生については予習復習時間が3.9時間と少ない一方で、卒業研究にあてる時間が8.3時間と長くなっている。次に「自主的な学習」とは、学生が大学の授業以外に行っている個人の学習

時間である。これは1～3年生が3.5時間程度に対して4年生は5時間で、学年が上がるにつれて自主的な学びの時間が増えている。

「サークル・部活動」については、1時間程度が全体の2割弱、また活動自体参加していないが約7割を占めている(表1)。コロナ禍でサークル活動や部活動の実施制限があったことが影響している。

「アルバイト」については図1では学年が上がるにつれて平均時間が長くなっている。アルバイトへ行っていない、アルバイト自体していないが全体の3分の1を占めている(表3)。「就職活動」については3年生から活動をはじめ、4年生が平均7時間程度となっている(図1)。「娯楽・交友」については図1の学年別では6～8時間程度となっているが、表4では0時間や該当しない(他の学生との交流がない)が49人という結果になった。コロナ禍による遠隔授業の影響で学生同士の交流が希薄になっていると思われる。

表2 サークル・部活動

	人数
31時間以上	1
26-30時間	0
21-25時間	3
16-20時間	3
11-15時間	4
6-10時間	21
1-5時間	87
0時間	229
*該当しない	102
総計	450

表3 アルバイト

	人数
31時間以上	13
26-30時間	7
21-25時間	7
16-20時間	40
11-15時間	68
6-10時間	91
1-5時間	64
0時間	108
*該当しない	52
総計	450

表4 就職活動

	人数
31時間以上	5
26-30時間	3
21-25時間	7
16-20時間	5
11-15時間	17
6-10時間	27
1-5時間	69
0時間	191
*該当しない	126
総計	450

表5 娯楽・交友

	人数
31時間以上	10
26-30時間	3
21-25時間	13
16-20時間	30
11-15時間	42
6-10時間	110
1-5時間	193
0時間	39
*該当しない	10
総計	450

(2)大学の施設やフリースペースで過ごしている時間 (1週間の合計時間)について

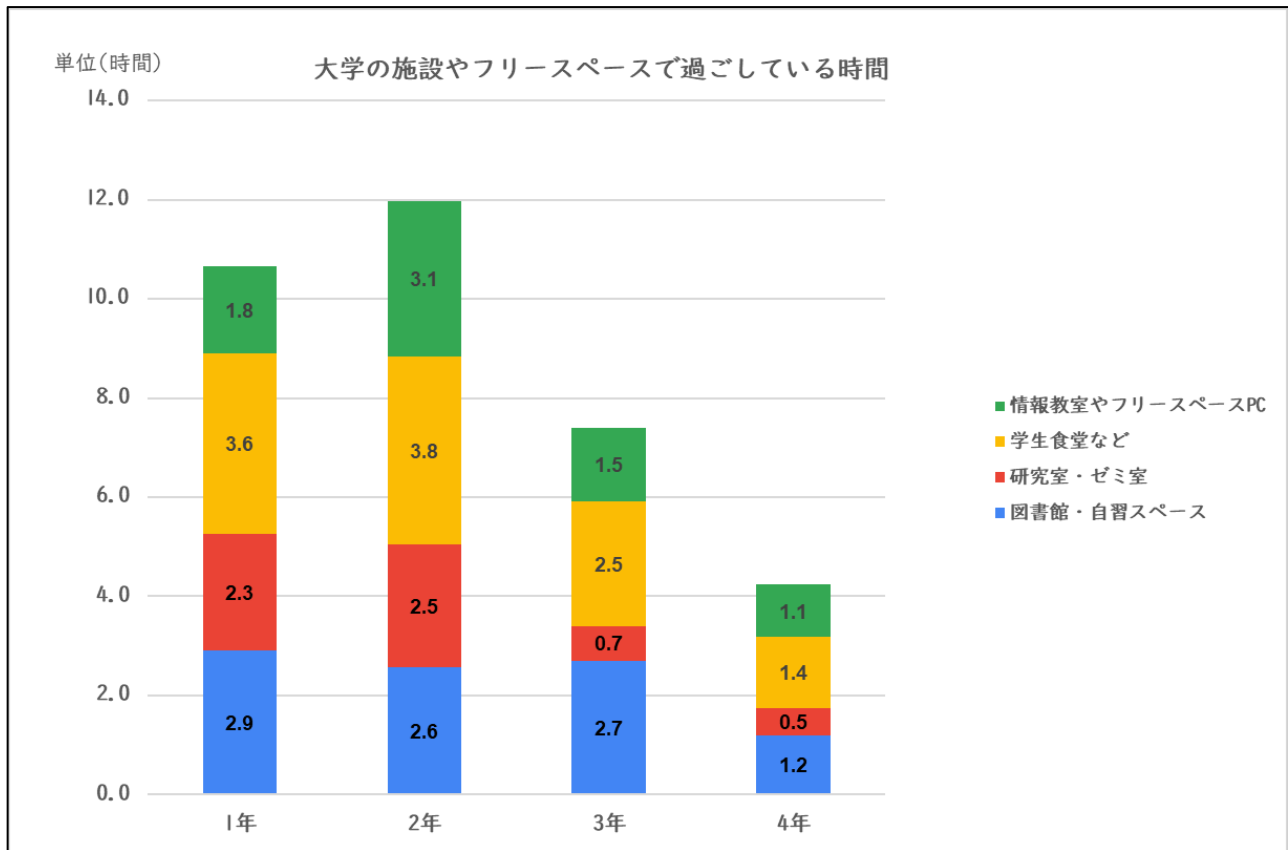


図 2 学年別 大学の施設やフリースペースで過ごしている時間

学生が大学の施設や学内のフリースペースで過ごしている時間については、2年生が一番長く、学年が上がるにつれて学内で過ごす時間が短くなっている(図 2)。また学内で過ごす場所は学生食堂や図書館・自習スペース、フリースペースのPCが長くなっている(表 6～表 9)。

表 6 図書館・自習スペース

	人数
26-30時間	10
21-25時間	1
16-20時間	3
11-15時間	1
6-10時間	40
1-5時間	226
0時間	180
総計	450

表 7 研究室・ゼミ室

	人数
26-30時間	20
21-25時間	0
16-20時間	0
11-15時間	0
6-10時間	2
1-5時間	48
0時間	380
総計	450

表 8 学生食堂など

	人数
26-30時間	4
21-25時間	0
16-20時間	0
11-15時間	3
6-10時間	42
1-5時間	271
0時間	130
総計	450

表 9 情報教室やフリースペース PC

	人数
26-30時間	10
21-25時間	1
16-20時間	0
11-15時間	3
6-10時間	12
1-5時間	129
0時間	295
総計	450

2. 授業科目の履修状況

履修登録している科目数について

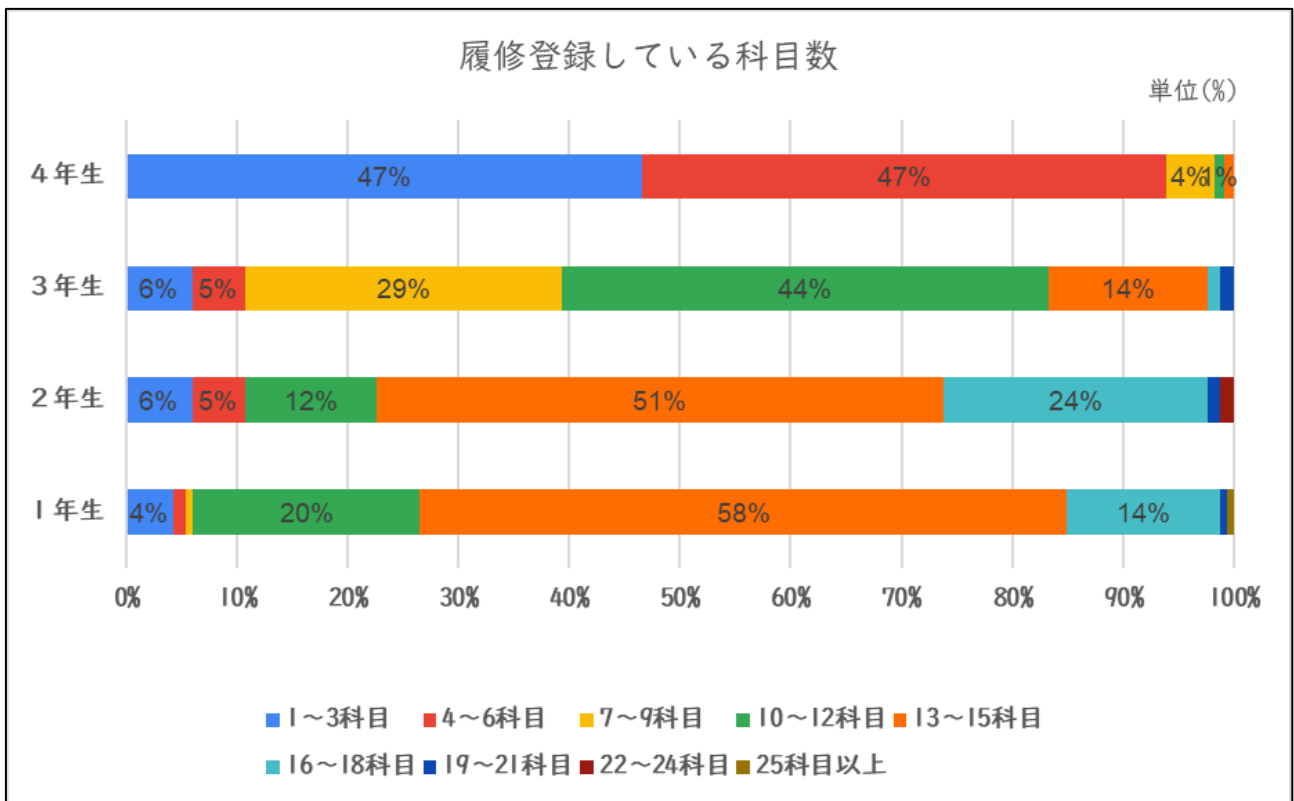


図 3 学年別 今学期に履修登録している科目数 (2021 年度前期)

図 3 は調査実施の学期(2021 年度前期)において、履修登録している科目数の平均を学科別に示したものである。1 年生と 2 年生は「13~15 科目」が多く (1 年生: 58%, 2 年生: 51%)、次に 1 年生は「10~12 科目」が 20%、2 年生は「16~18 科目」が 24%となっている。3 年生で最も多いのが「10~12 科目」が 44%、4 年生は「1~3 科目」が 47%、「4~6 科目」が 47%であった。

各学年の科目数の最頻値は1年生が13科目、2年生は14科目、3年生11科目、4年生2科目だった(表10)。

表10 学年別 履修登録している科目数と人数

科目数	1年生	2年生	3年生	4年生	1-4年総計	構成比
1~3	7	5	5	54	71	15.8%
4~6	2	4	4	55	65	14.4%
7~9	1		24	5	30	6.7%
10~12	34	10	37	1	82	18.2%
13~15	97	43	12	1	153	34.0%
16~18	23	20	1		44	9.8%
19~21	1	1	1		3	0.7%
22~24		1			1	0.2%
25以上	1				1	0.2%
総計	166	84	84	116	450	100.0%

3. 授業科目の実施内容・方法

図4は本学の授業科目の実施内容・方法について示したものである。10の質問に対して、4段階評価「1.ほとんどなかった」「2.あまりなかった」「3.ある程度あった」「4.よくあった」で答えるものである。

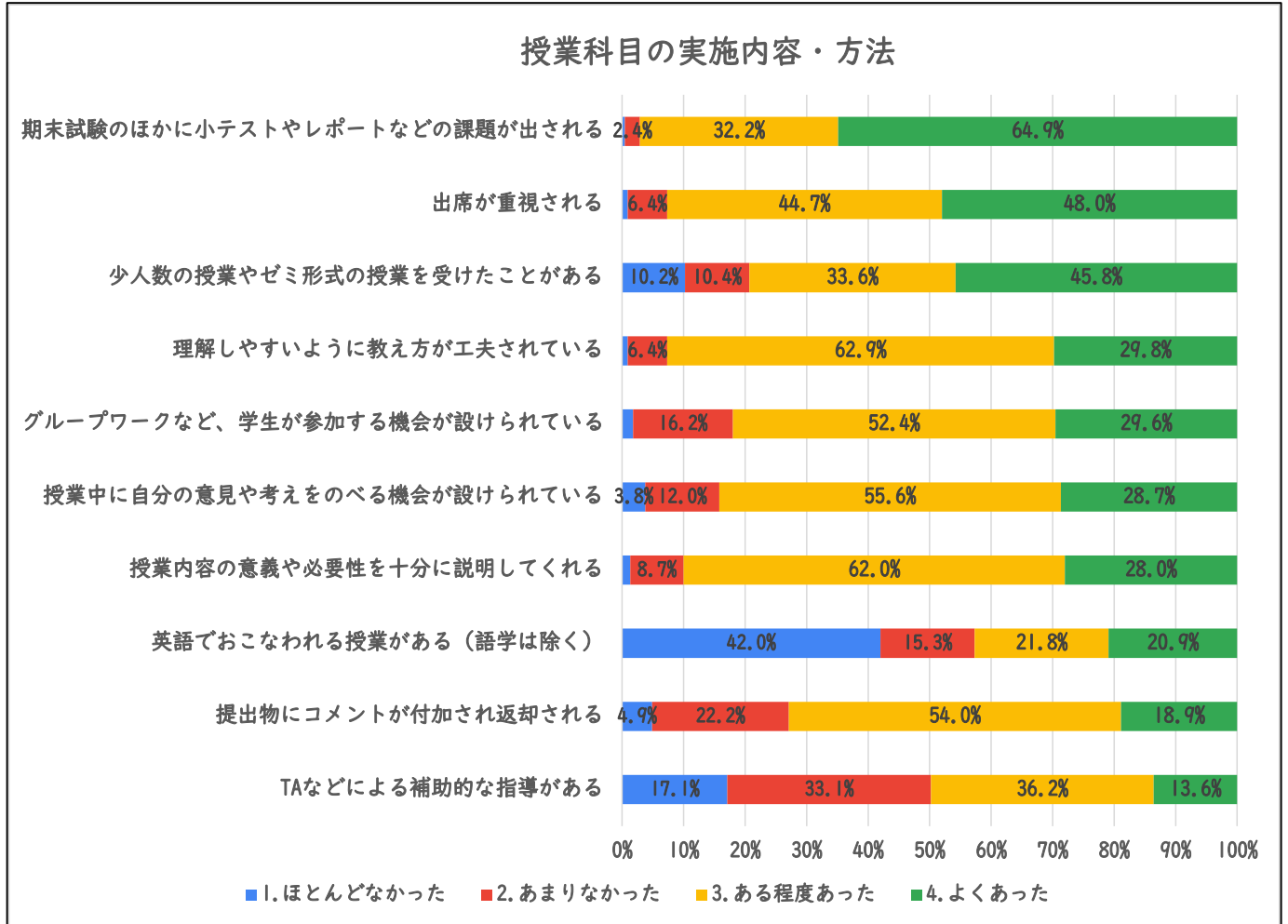


図4 授業科目の実施内容・方法

図4は授業科目の実施内容・方法で、「4.よくあった」「3.ある程度あった」の割合が高いものから順に並べてある。まず「期末試験のほかに小テストやレポートなどの中間課題が出される」については、「4.よくあった」「3.ある程度あった」の割合が最も高く(合計97.1%)であった。レポートは授業時間外に学習を促す目的で出され、小テストは学生の理解状況を把握するために実施されるが、今年度は遠隔授業を中心に行われたため、例年よりもレポート課題が多く出されたと思われる。続いて「出席が重視される」は(合計92.7%)であった。出席については、本学では授業回数3分の1以上の出席が単位取得の条件になっている。次に「少人数の授業やゼミ形式の授業を受けたことがある」は約8割の学生が経験したと答えている。さらに「理解しやすいように教え方が工夫されている」と「授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれる」については、約9割の学生が肯定的な回答を示しており、教員が授業内容や教授方法に工夫をしていることがわかる。さらに「グループワークなど学生が参加する機会が設けられている」についても約8割の学生が「4.よ

くあった」と「3.ある程度あった」と答えていることから、アクティブラーニングの授業が増えていることがうかがえる。

一方で、「提出物にコメントが付加されて返却される」の「4.よくあった」「3.ある程度あった」の割合が72.9%であった。小テストやレポート課題が出される割合が97.1%に比べると提出物にコメントが付加されて返却されるは24%ほど少ない値になっている。また、「英語でおこなわれる授業がある（語学は除く）」は「1.ほとんどなかった」「2.あまりなかった」の割合が約6割、「TAなどによる補助的な指導がある」については5割程度であった。この2つについては大学の組織的な取り組みとの関連があるため、「4.よくあった」や「3.ある程度あった」の割合が他の項目に比べて少なくなっている。

4. 学生の学習に対する取り組み

図5は学生の授業や学習に対する取り組みの傾向について示したものである。6つの質問に対して、4段階評価「1.ほとんどなかった」「2.あまりなかった」「3.ある程度あった」「4.よくあった」で答えた結果である。「3.ある程度あった」「4.よくあった」の割合が高い順に並べてある。

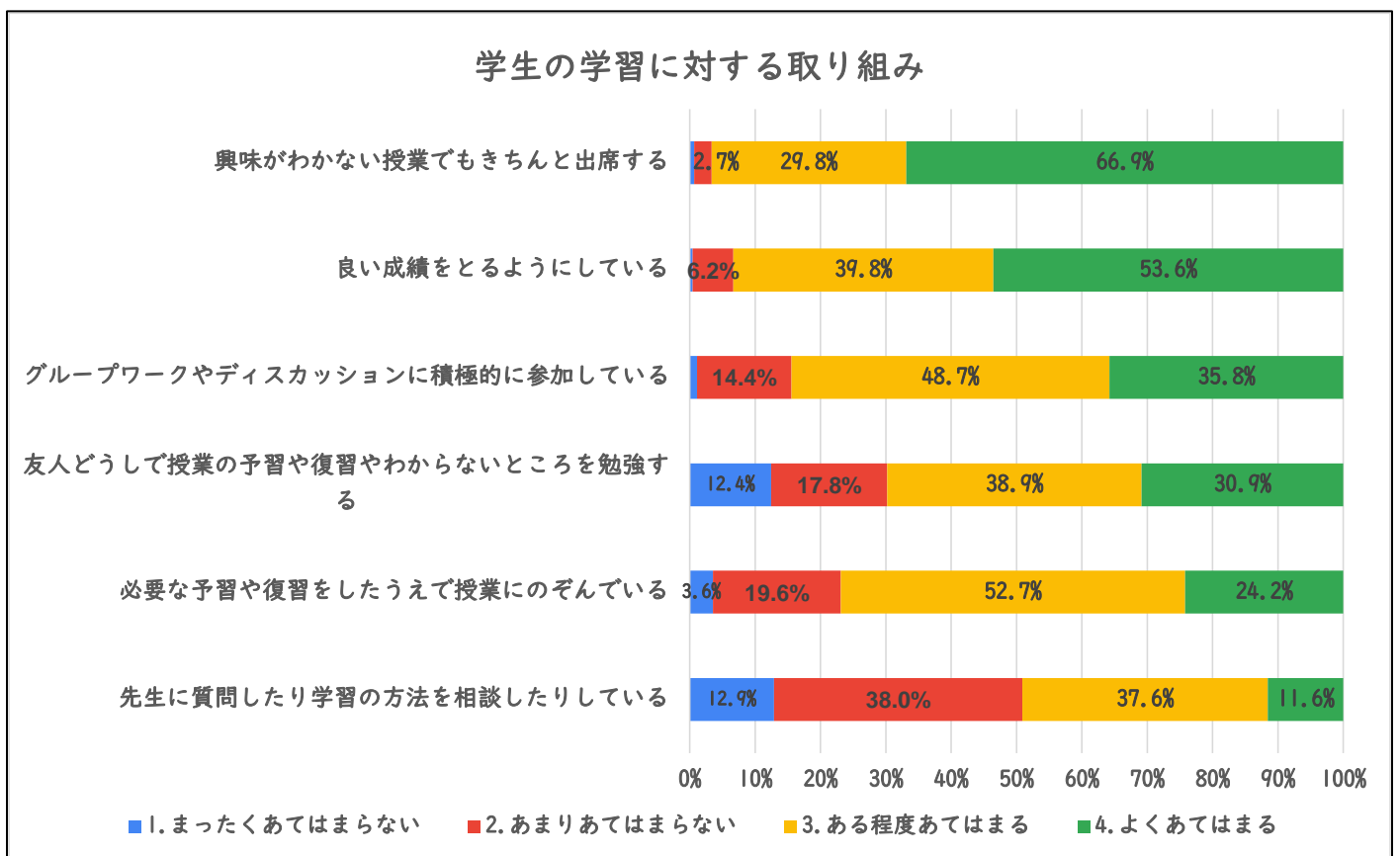


図5 学生の授業に対する取り組み

まず学生の授業に対する取り組みで、「興味がわからない授業でもきちんと出席する」については「4.よくあった」「3.ある程度あった」の割合が最も高く(合計約97%)、次に「良い成績をとるようにしている」が約93%だった。「グループワークやディスカッションに積極的に参加している」が

84.5%、「友人どうして授業の予習や復習でわからないところを勉強する」も約70%と高い。その一方で、「先生に質問したり学習の方法を相談したりしている」は49.2%と他に比べてやや少なくなっている。

5. 大学の授業に対する評価

(1) 大学の授業や経験の有用性について-1

図6は大学の授業や経験の有用性、役に立っているかどうかについて5段階評価「1.まったく役に立っていない」「2.あまり役に立っていない」「3.ある程度役に立っている」「4.よく役に立っている」「5.その内容の授業を履修していない」の結果である。「3.ある程度役に立っている」「4.よく役に立っている」の割合が高いものから順に並べてある。

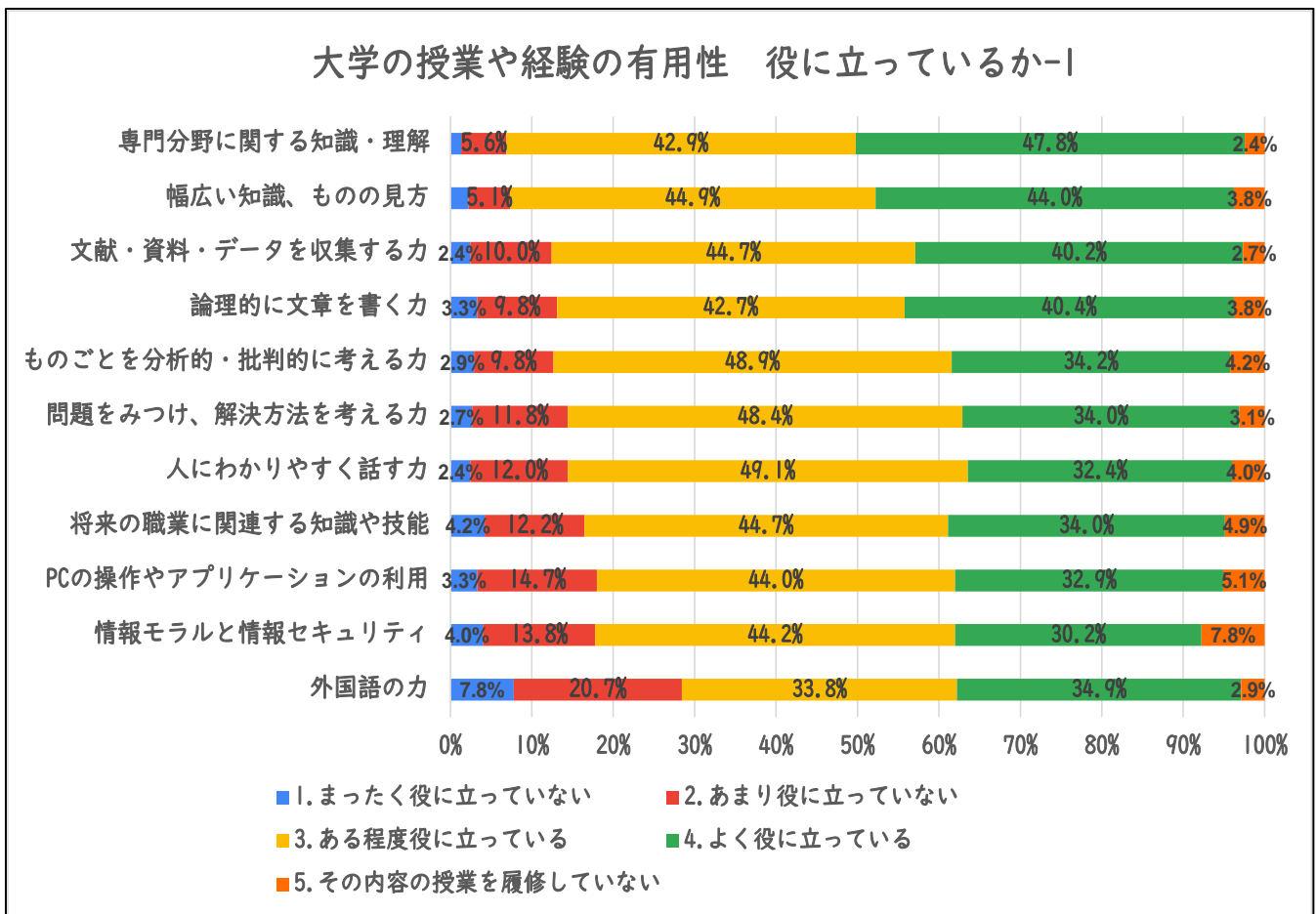


図6 大学の授業や経験の有用性について-1

まず「専門分野に関する知識・理解」や「幅広い知識、ものの見方」については「4.よく役立っている」や「3.ある程度役に立っている」の割合が90%以上を示している。また、「文献・資料・データを収集する力」「論理的に文章を書く力」「問題を見つけ、解決方法を考える力」「人にわかりやすく話す力」は80%以上を示している。一方、「外国語の力」や「PC操作」、「情報モラルと情報セキュリティ」についてはやや低いものの、学生は大学の授業の経験をおおむね肯定的に受けとめている。

(2) 大学の授業や経験の有用性について-2

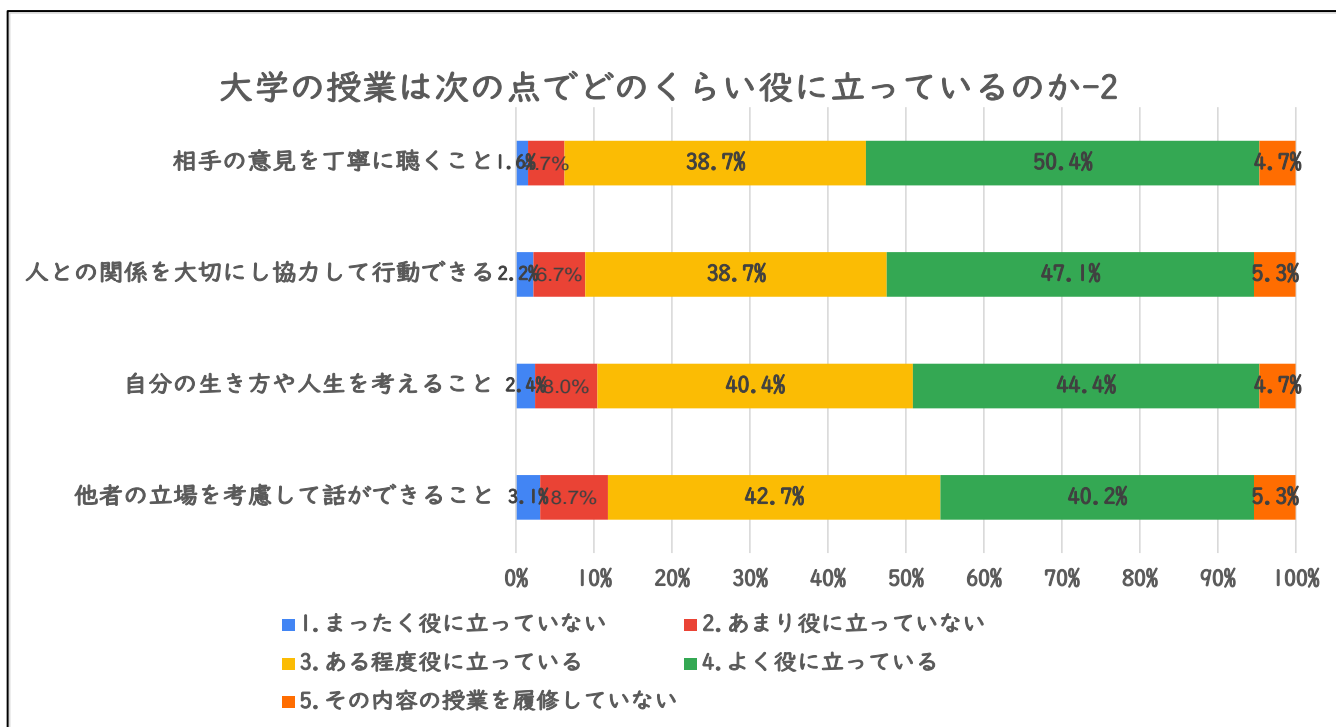


図7 大学の授業や経験の有用性について-2

図7は大学の授業や経験で身に着けたことへの有用性についてである。「相手の意見を丁寧に聴くこと」や「人との関係を大切にし、協力して行動できること」、「自分の生き方や人生を考えること」「他者の立場を考慮して話ができること」について80~90%の学生が役に立っていると肯定的であった。

(3) 特定の目的のための授業科目やプログラムについての評価-1

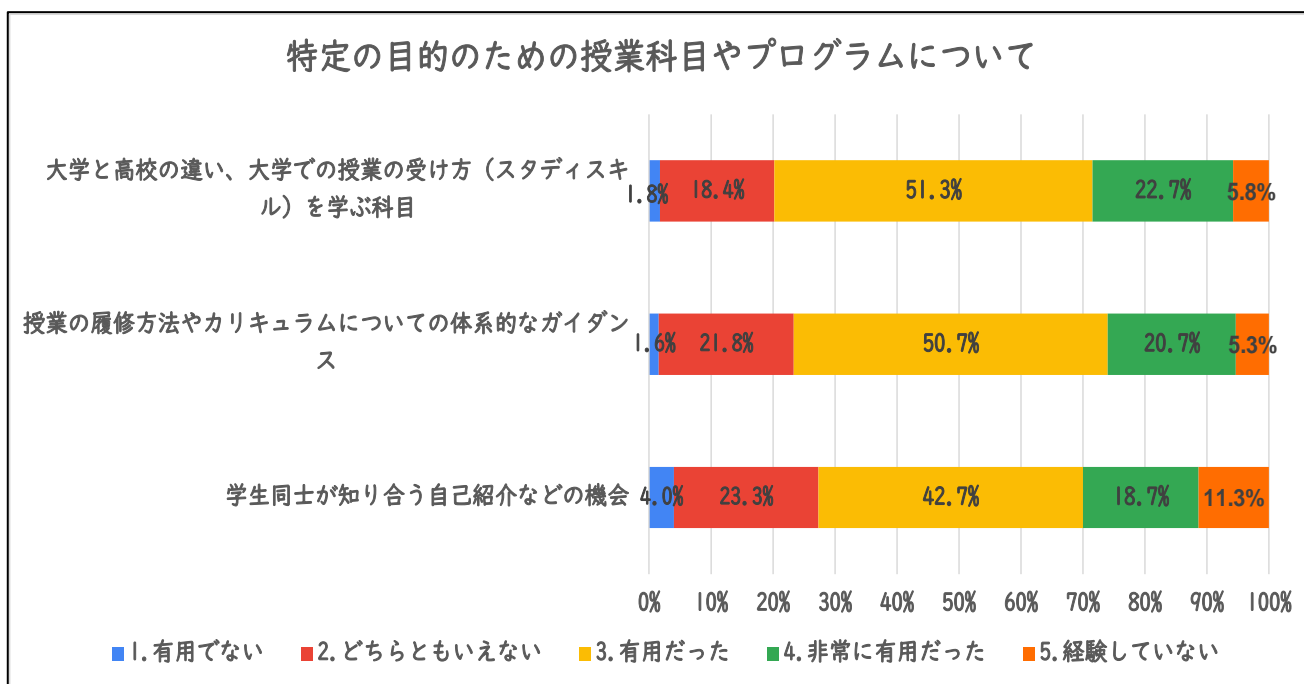


図 8 特定の目的のための授業科目やプログラムについての評価-1（学生全体）

図 8 は特定の目的のための授業科目やプログラムについて 5 段階評価したものである。まず「大学と高校の違い、大学での授業の受け方（スタディスキル）を学ぶ科目」については、74%の学生が「3.有用だった」「4.非常に有用だった」と答えている。学年別(図 9)で見ると、1年生がスタディスキルに関する授業を経験した割合が多く、そのうち 78.9%で有用だったという回答があった。

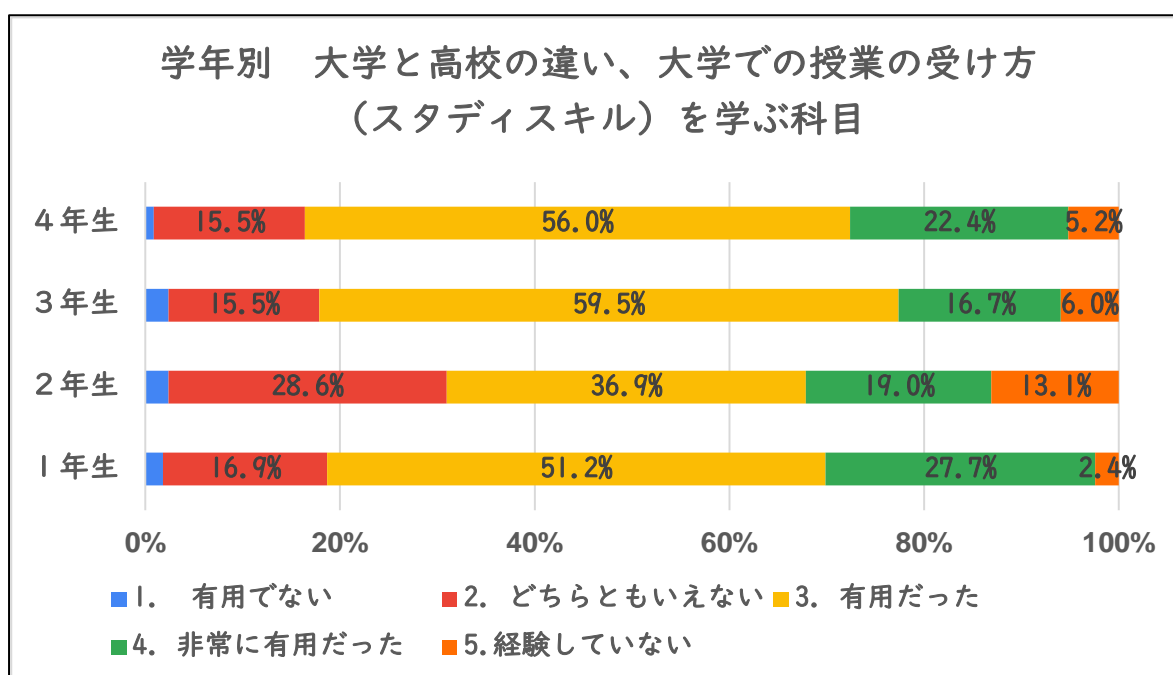


図 9 学年別 スタディスキルを学ぶ授業についての評価

この科目は入学間もない時期に実施している初年次教育の授業で、高校と大学の違い、大学で授業の受け方などについて学ぶ科目である。アンケート調査の直前までそのような授業を受講していた1年生に肯定的な回答が多くみられた。

次に図8の「授業の履修方法やカリキュラムについての体系的なガイダンス」についても有用だと回答した学生が全体の70%以上に達した。また「学生同士が知り合う自己紹介などの機会」については、約90%の学生が、学生同士が知り合う何かしらの機会があったと回答している。学年別では主に1年生の割合が高かったため、初年次教育の授業の中でそのような機会が設けられているのではないかと思われる。

(4) 特定の目的のための授業科目やプログラムについての評価-2

次に就職やキャリアをテーマとした科目(図10)、資格試験などの受験準備のための科目(図11)、海外留学(図12)についての評価についてみていく。

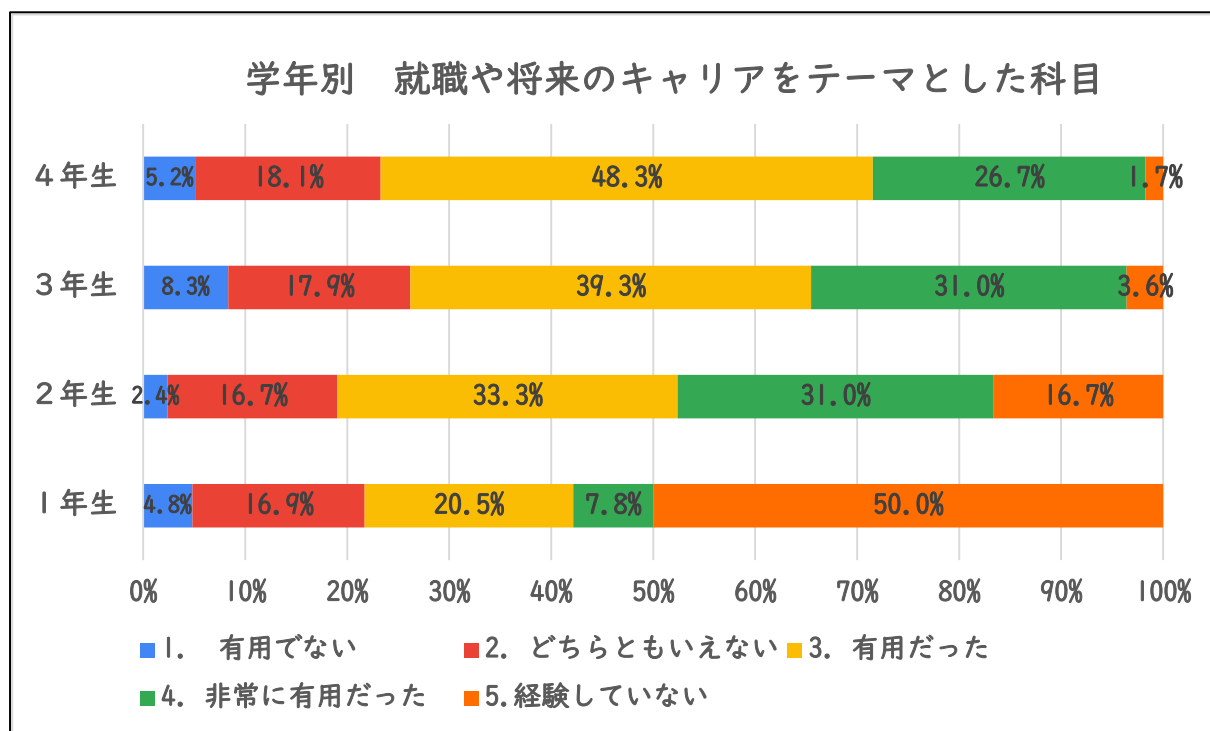


図10 学年別 就職や将来のキャリアをテーマとした科目についての評価

図10は就職や将来のキャリアをテーマとした科目について5段階評価したものである。1年生では半数の学生がまだ就職や将来のキャリアをテーマとした科目を履修していないとしながらも、2年生以上になると85%以上、3年生になると95%以上の学生が履修していると答えている。学年が上がるごとに就職やキャリアをテーマとした科目を有用だと答えている。4年生については75%の学生が「3.有用だった」と「4.非常に有用だった」と答えている。

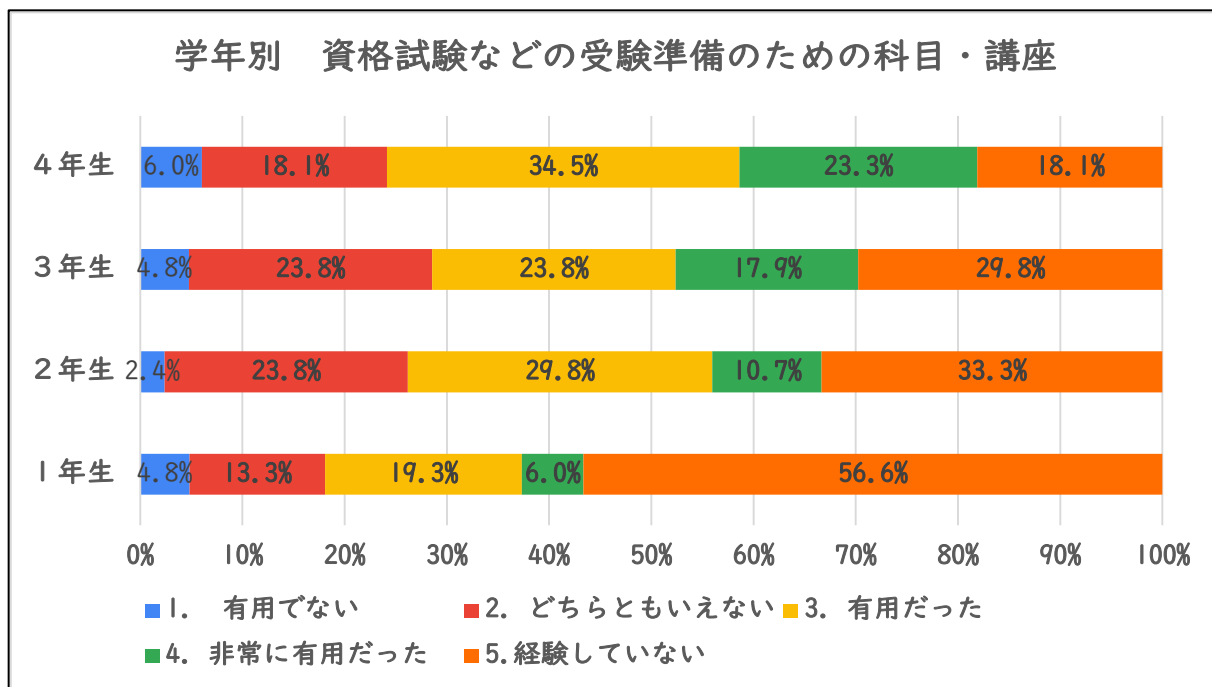


図 11 学年別 資格試験などの受験準備のための科目・講座についての評価

図 11 は資格試験などの受験準備のための科目・講座について 5 段階評価したものである。これは先の図 10 の就職や将来のキャリアをテーマとした科目と同様に、半数以上の 1 年生はこの科目をまだ履修していない。学年が上がるごとに履修者が増え、4 年生については約 60% の学生が「3.有用だった」と「4.非常に有用だった」と答えている。

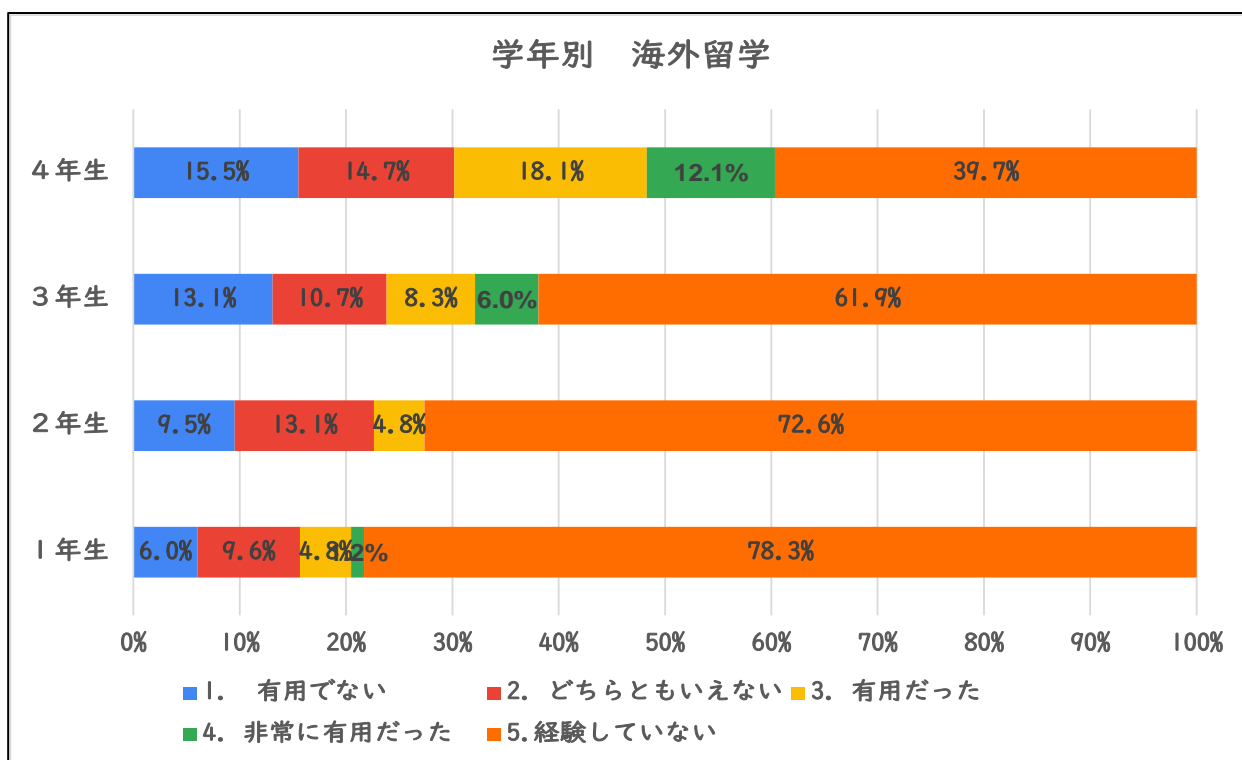


図 12 学年別 海外留学

図 12 は海外留学の経験について、5 段階評価したものである。数週間から 1 年程度の短期の留学経験について尋ねた質問である。1、2 年生の海外留学の経験をしていない割合が約 70～80%となっている。2020 年から始まったコロナ禍で現在の 1、2 年生にとっては海外留学のチャンスがなくなっているためこのような値になっていると思われる。3 年生は 4 割が海外留学の経験あり、4 年生が 6 割となっており、留学経験のある半数が有用であると答えている。

6. 入学後に感じたことや行動したことなど

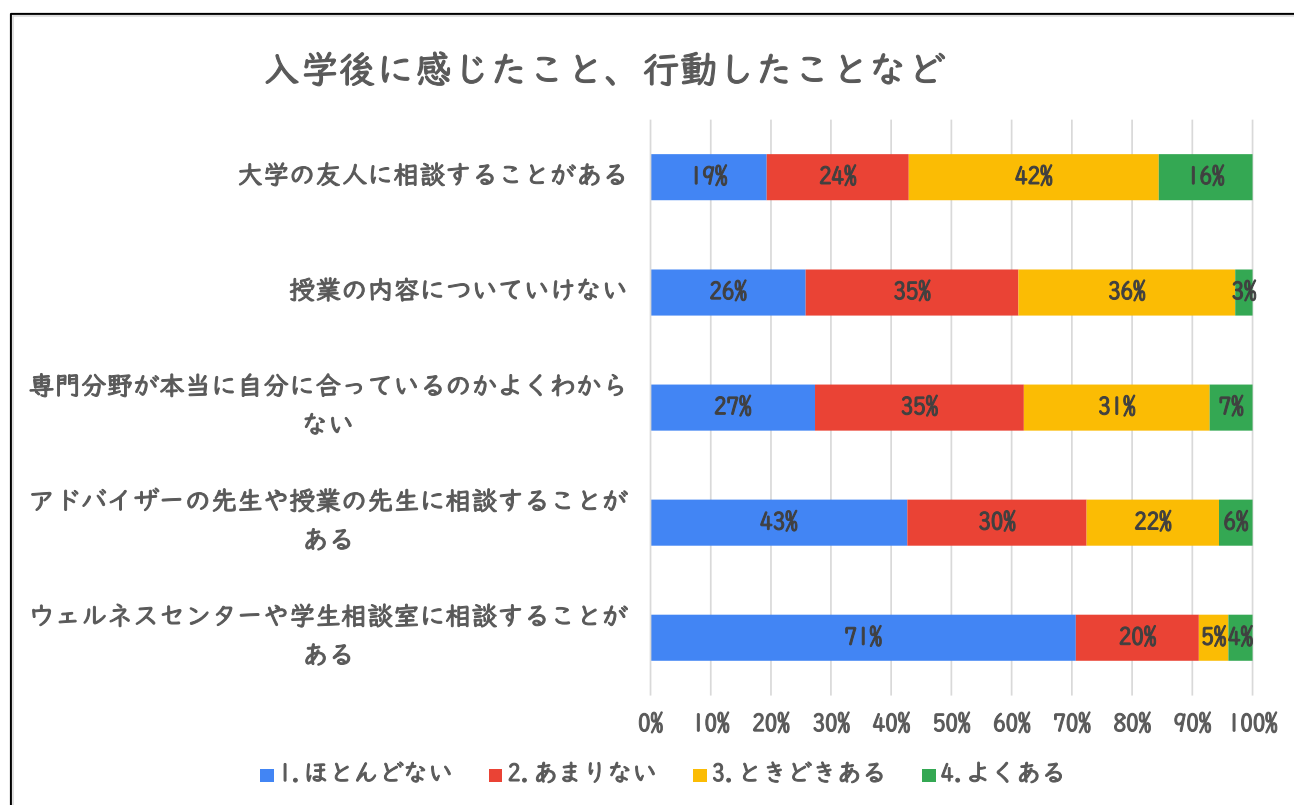


図 13 学生が入学後に感じたこと、行動したことなど (全体)

図 13 は学生が入学後に感じたことや行動したことについて、4 段階評価をしたものである。「3. ときどきある」「4.よくある」の割合が高いものから順に並べてある。「大学の友人に相談することがある」については約 6 割が相談すると答えている。次に「授業の内容についていけない」については学生全体の約 4 割がついていけないと感じることがあると答えている。この結果を学年別に表したものが図 14 である。1 年生と 2 年生で「授業についていけないと思う」ことがあると答えた学生の割合が約 50%となっている。3 年生は 34%、4 年生は 24%と学年が上がるにつれてその割合は低くなっている。

次に図 13 の「専門分野が本当に自分に合っているのかよくわからない」については学生全体の約 40%がときどきそう思うと答えている。これについては学年別の間でも同じような値になっている (図表は省略)。

次に図 13 の「アドバイザーの先生や授業の先生に相談することがある」については、学生全体では約 30%の学生がアドバイザーの先生や授業の先生に相談をしている。これについては図 15 の学年別に表したものをみると、1、2 年生については学生の約 20%が相談をして、学年が上がるとその

割合は、3年生が30%、4年生は約40%と高くなっている。授業でわからないことや困ったことがあっても低学年ほどアドバイザーの先生や授業の先生に相談をしていないと思われる。これについては図14の「授業についていけない」の項目にも関係すると思われる。今後は詳細に調査するとともに学生の対応を検討していく必要がある。

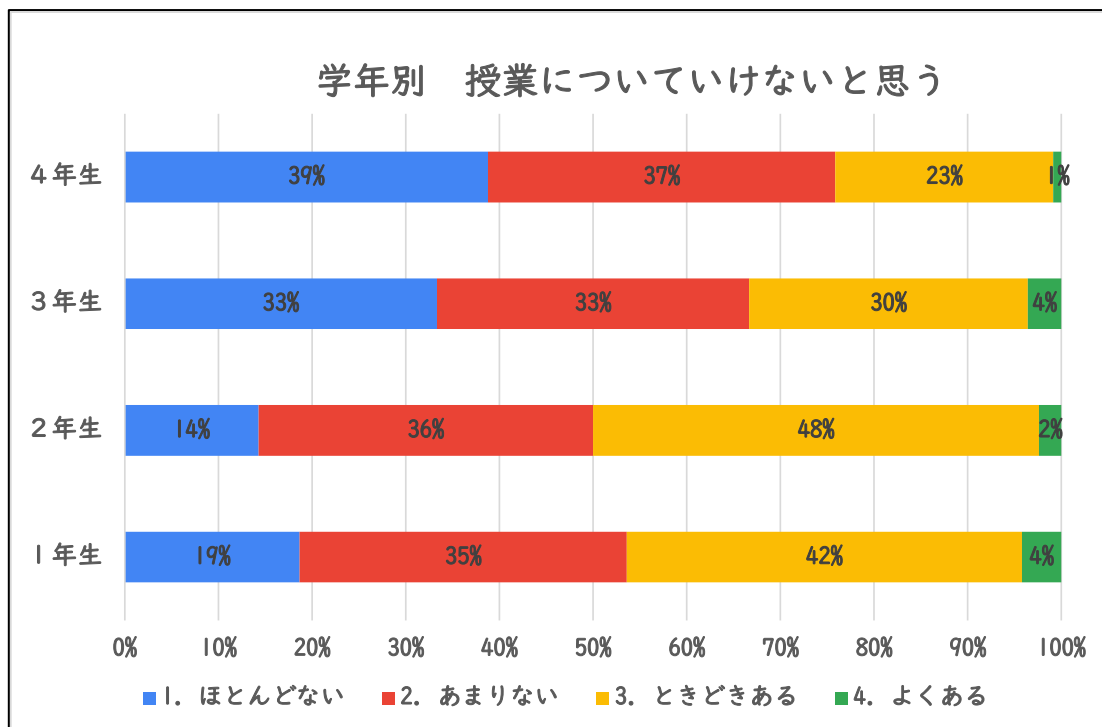


図14 学年別 授業についていけない割合

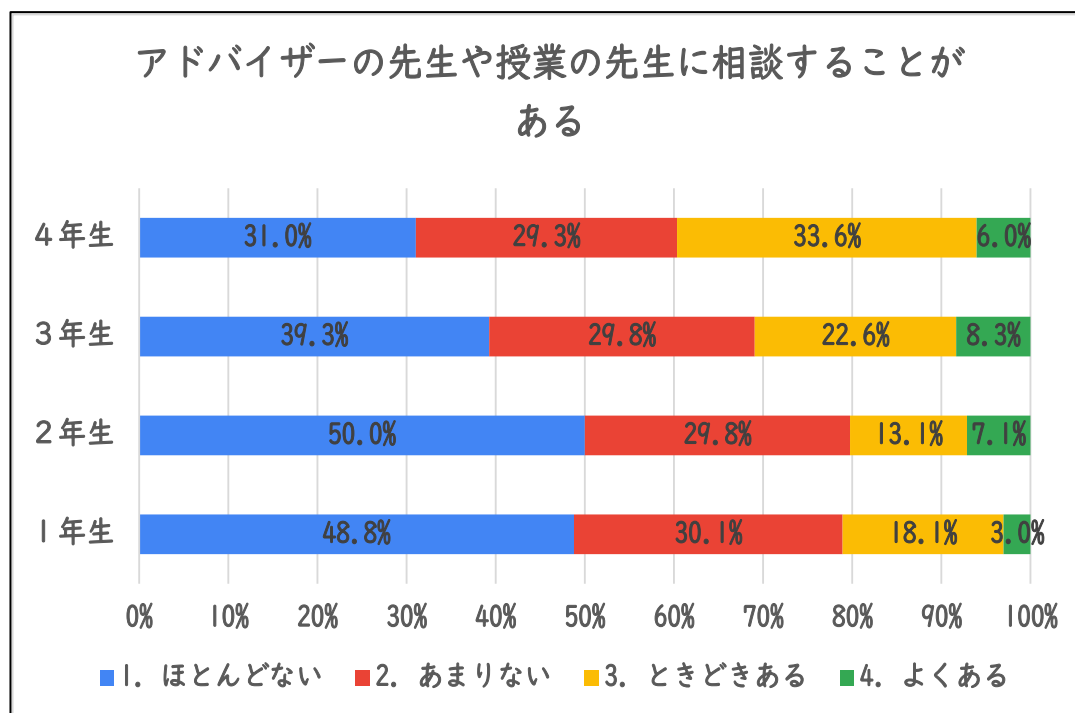


図15 学年別 アドバイザーの先生や授業の先生に相談することがある

次に図13の「ウェルネスセンターや学生相談室に相談することがある」については学生全体では約10%が相談すると答えている。図16の学年別の内訳を見ると、1年生は7.8%、2年生は2.4%、3年生は10.7%、4年生は13.8%となっている。低学年では相談の利用が少なく、学年が上がればあがるほど相談する割合が増えている。前述の「アドバイザーの先生や授業の先生に相談することがある」と同様の結果になった。

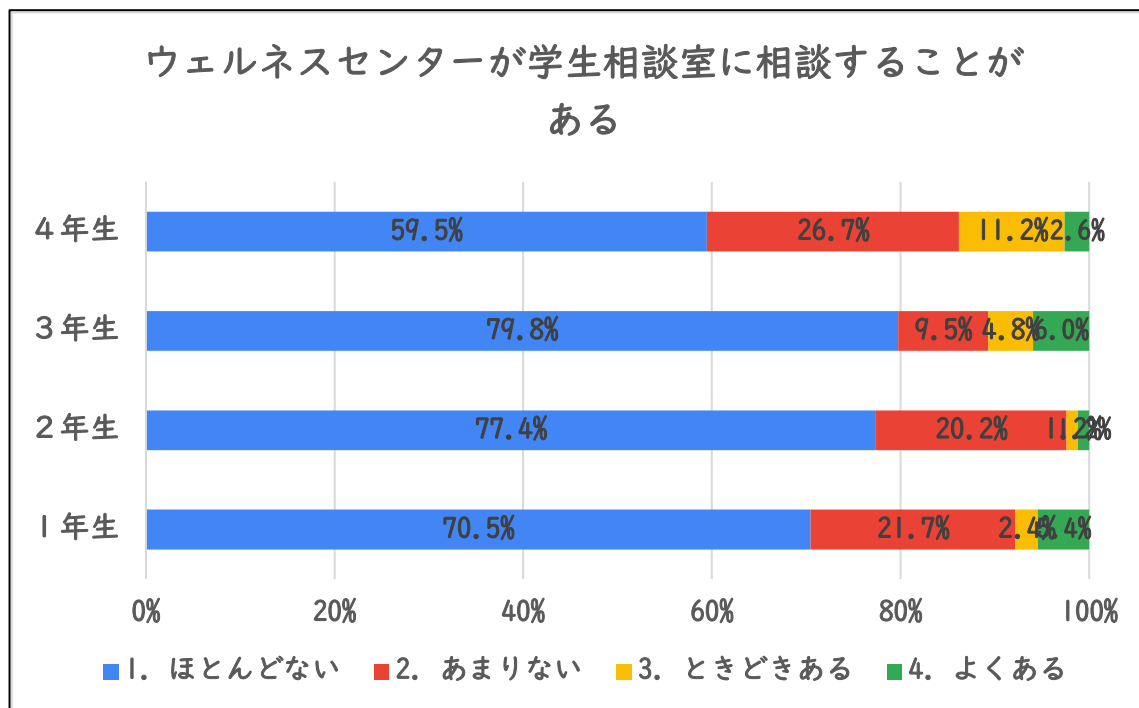


図16 学年別 アドバイザーの先生や授業の先生に相談することがある

7. 卒業後の進路希望

(1) 入学時の進路希望

次に学生の卒業後の進路希望について入学時点で考えた進路と、入学後（現在）に考えた進路についてみていく。

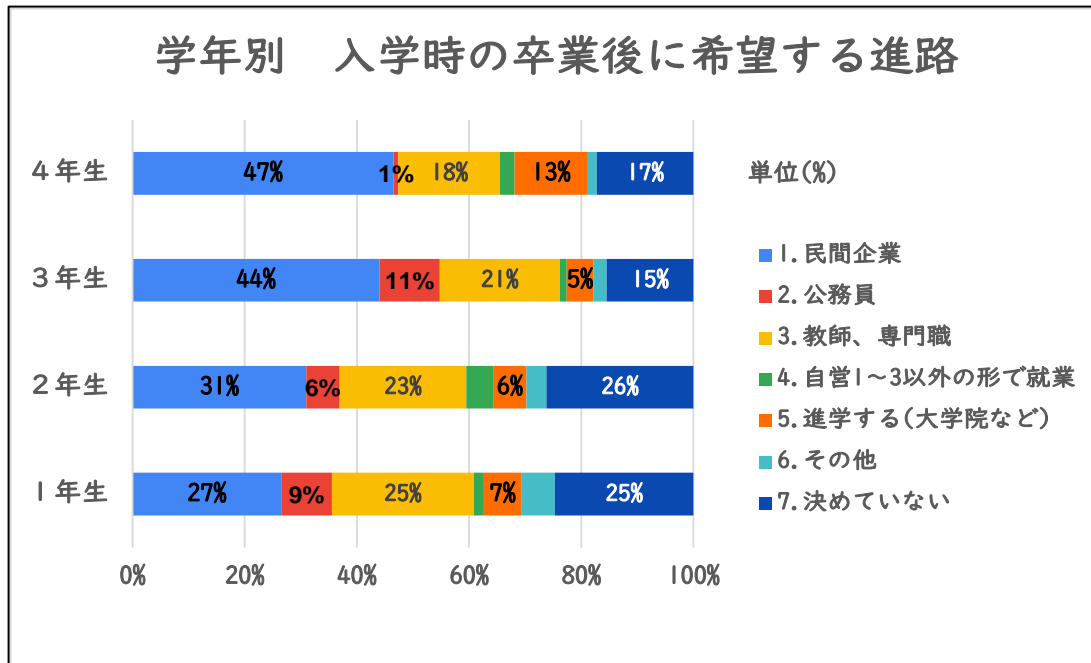


図 17 学年別 入学時の卒業後に希望する進路

図 17 は学生が入学時に卒業後に希望していた進路について尋ねた結果を学年別で示している。1年生と2年生は、3年生と4年生に比べて民間企業への進路希望の割合がやや低く(約30%)、公務員や教員志望の割合多く、進路を決めていないが約25%程度となっている。一方、現在の3年生と4年生が入学時に希望した進路は、民間企業への就職が約半数を占め、進路を決めていない割合は約15%程度であった。この違いについては、現在の1、2年生が大学に入学した頃は、新型コロナウイルスの影響で、民間企業の内定取り消しや多くの企業が新卒採用を控えた就職難の時期であり、将来の就職について先が見えないことへの不安があると思われる。

図 18 は現在の卒業後に希望する進路である。1、2年生については入学時の進路とあまり変化はないが、3年生と4年生については民間企業への就職希望が10%程度増え、4年生については進路を希望していないは2%となっている。

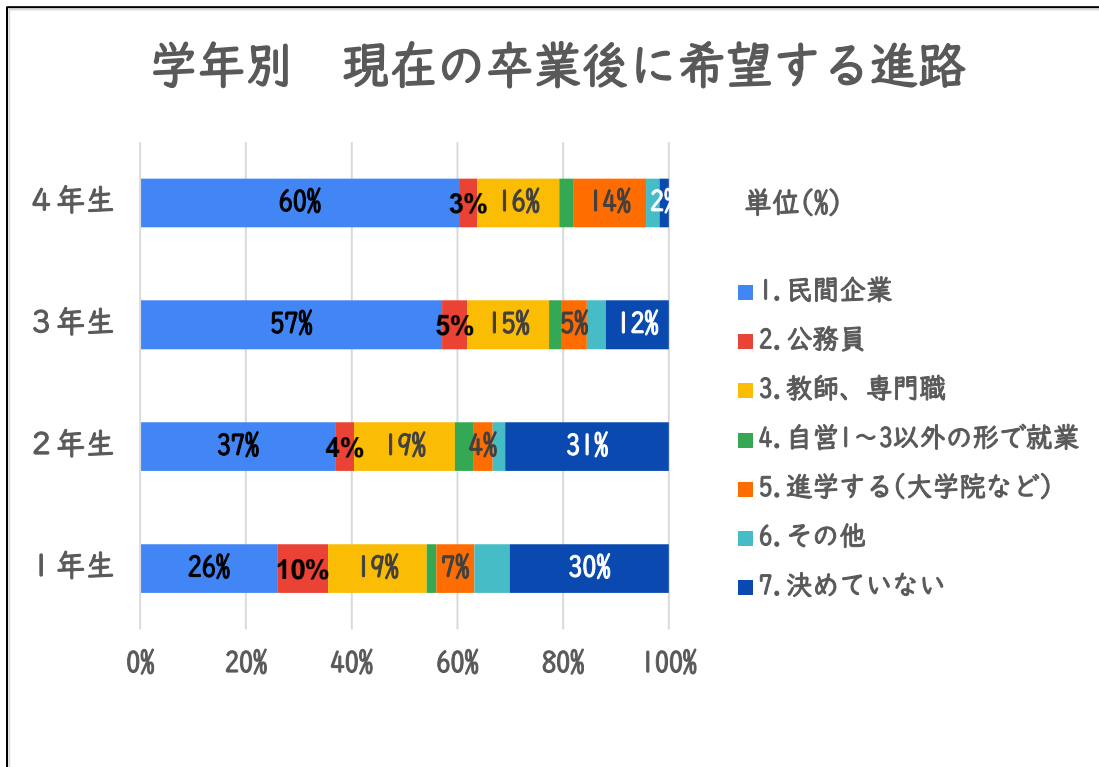


図 18 学年別 現在の卒業後に希望する進路

参考資料

- [1] 国立教育政策研究所高等教育研究部 (2014) 「大学生の学習状況に関する調査について (概要) 資料 1-4 」, https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pf_pdf/20141007.pdf
- [2] 濱中義隆(2016) 「平成 28 年度 大学生の学習状況に関する調査研究-結果の概要 (大学昼間)」, https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf
- [3] 国立教育政策研究所(2016) 「大学生の学習状況に関する調査について (概要)」, https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf06/gakusei_chousa_gaiyou.pdf